九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告 : 第10巻

清水, 周次
九州大学病院

中島, 直樹
九州大学病院

https://doi.org/10.15017/1517924

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 10, 2014-03. TEMDEC事務局
バージョン：
権利関係：

11.　おわりに

途上国から広がる遠隔医療の可能性

「医療」という人の命に密着した業務は、本来は安全を期し、かつ最大の効果を得るために、有効な情報を様々な方法で医療者が入手することができるように「対面」で行うことが原則です。これは､医療者･患者間の遠隔診療でも、医療者・医療者（学生含む）間の遠隔医療教育でも同様でしょう。

一方､「遠隔医療」はこの原則から外れ、離れた地点でこの「医療」を行うことを指します。原則から外れざるを得ないのは、①国土が広大、あるいは医療施設へのアクセス手段が貧弱である場合、②医師・看護師不足、医療施設不足など、医療リソース不足がある場合、③医療保険制度の未整備、国民の貧困など経済的な問題がある場合、などによって、特に農村部には医療施設がいきわたらず、医療施設へ到達する時間や費用が大きくなりすぎるためです。そのような状況を少しでも改善するために情報コミュニケーション技術（ICT）の発展によって遠隔医療は徐々に発展してきました。

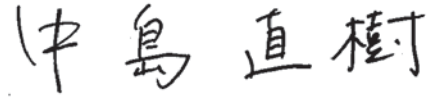
他の産業の例に漏れず、医療でも先進国で発展した医療技術が途上国へ拡大してきました。医薬品しかり、医療機器しかり、医療倫理しかり、です。その医療では珍しく、遠隔医療は途上国から発展し、先進国へ広がる可能性があります。これは、先進国には多くの場合に上の①②③の問題が少ない、つまりニーズがないからであり、逆に途上国にはニーズがあるからです。それでは、遠隔医療とは、途上国のニーズを満たすだけの技術でしょうか？私はそうは思っていません。

日本では、少子高齢化が進み、老齢人口率（65 歳以上年齢率）が 2010 年ですでに 23％に達し、今後も増加する傾向を示しています。他の先進国も同様の傾向ですが、日本は断トツです。特に僻地離島ではその傾向は著しいものがあります。同時に医師の都会への居住志向があり、僻地離島の医療施設が次々に閉鎖しています。つまり、若い医師は都会へ、老人は僻地へ偏在しています。実はこの状況は、結果的に今の途上国に類似しています。途上国では、国土の多くは無医村であり、医師や医療機関は大都市に偏在しています。このように考えると、今日の途上国は、先進国の 10 年後、20 年後の課題をそのまま先取りしているようにも思われます。

遠隔医療技術を今、途上国で開花させ、発展させ、そして先進国へ拡大しましょう。そのことにより、もともとは先進国で開発された医療が、途上国で費用対効果を考慮して効率化され、先進国へ広がる可能性を秘めています。先進国ではできないイノベーションを途上国で行いそれを先進国へ逆輸出することを「リバースイノベーション」と言いますが、遠隔医療でもきっと可能でしょう。

多くの途上国に TEMDEC のネットワークは徐々に広がってきました。これからの遠隔医療の夢は益々広がっていきます。

平成 26 年 3 月

九州大学病院　アジア遠隔医療開発センター

中島直樹